

2023 年度 事業報告書

2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日

学校法人武田学園
専門学校ビーマックス

I. 学校の概要

1. 学校の教育方針

- 就職内定獲得を最終目標とせず、社会で活躍する人財になることを最終目標と見据えて指導を行う
- 夢をかなえるためのカウンセリングと個性に応じた指導を行う
→PSA パーソナリティ診断（気質・性格診断）、個人・三者面談の随時実施
- 困難な状況でも、折れない、諦めない心を養う指導を行う
→レジリエンス向上プログラム
- 「やり方（テクニック）」習得に偏重せず、「あり方（どうあるべきか）」を心掛けるように促す指導も行う
- コミュニケーション力と問題発見力、問題解決力を身につけるための指導を行う
→挨拶、掃除の精度向上、学友会活動等（＝学生同士で討論できる機会の提供）
- 自律する力、自ら考える力、行動する力、感謝する心を養う指導を行う
＝ 教え過ぎない、与え過ぎない
→セルフマネジメント、履修状況報告書
- 基礎的な学力向上・体力向上に向き合う指導を行う
→基礎学力向上プログラム、全学科共通で目指す資格（ビジネス能力検定、漢字能力検定、MOS）、トレーニングジム〈ミライアス〉の有効活用、部活動の推進
- 実践型・体験型プログラムを通して実践力を身に付けられるように指導する
→インターンシップ、社会貢献プログラム、ヒューマンスキルプログラム

2. 学校法人の沿革

1978年	個人立 『経理学校 岡山会計学館』を設立
1981年	『岡山会計学館経理専門学校』として専修学校認可
1985年	ビジネス本科に県下唯一の公務員ビジネスコース設置
1989年	学校法人武田学園設立認可
1995年	専門士認定校に指定
1997年	校名を『専門学校ピーマックス』へ変更
2001年	文部科学省「専修学校 IT フロンティア教育推進事業」研究校
同年	心の知性教育をベースとした「ヒューマンスキルプログラム」を開始
2002年	文部科学省「専修学校社会人キャリアアップ教育推進事業」研究校
2003年	文部科学省「専修学校先進的教育研究開発事業・学生ケアシステム化」研究校
2009年	生涯学習センター開設
2010年	キャリア支援センター開設
2017年	トレーニングジム〈ミライアス〉開設
2023年	キャリアサロン 1F〈ザ・ロビー〉開設

3. 設置する学科・コースと総定員（2024年4月1日現在）

学科	コース・専攻	修業年限	総定員	性別
エアライン	エアライン	2年	40	男女
ブライダル・ホテル	ブライダル・ホテル	2年	40	男女
公務員	公務員ビジネス	2年	120	男女
	公務員	1年	20	男女

4. 学生数の状況について (2024年5月1日現在)

学科	コース・専攻	1年	2年	計
エアライン	エアライン	17	12	29
ブライダル・ホテル	ブライダル・ホテル	29	25	54
公務員	公務員ビジネス	38	39	77
	公務員	14	-	14
計		98	76	174

5. 役員・評議員の概要 (2024年4月1日現在)

理事： 7名

監事： 2名

評議員： 15名

6. 役員名簿 (2023年4月1日現在)

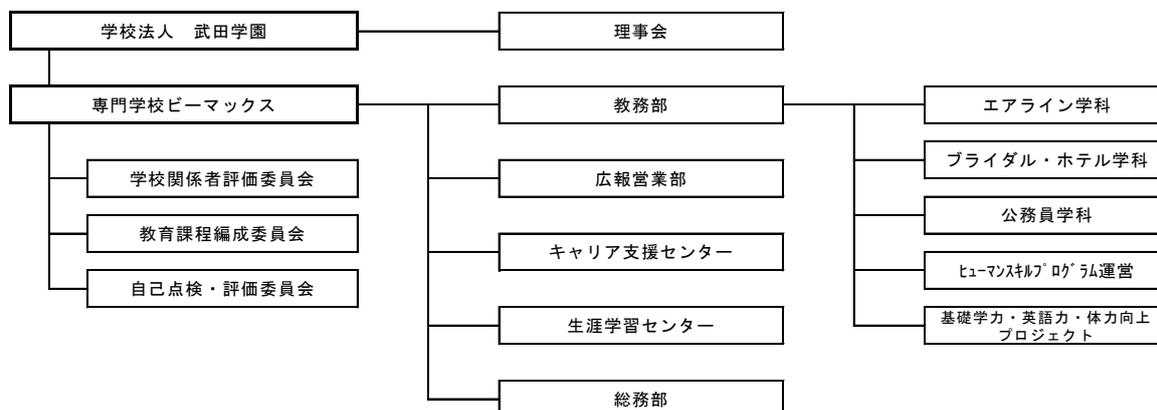
理事長 武田 結幸
 理事 武田 知子
 理事 坂上 弘次
 理事 岩城 孝男 外部
 理事 上月 健輔 外部
 理事 逢沢 一郎 外部
 理事 本谷 伸一郎 外部
 監事 那須 照正 外部
 監事 平松 俊男 外部

6. 教職員の概要 (2024年4月1日現在)

教職員： 19名

講師： 16名

7. 組織図



II 事業の概要

1. 学習について

(1) 概要

- 2023年5月に新型コロナウイルスが感染症法上の5類に移行し、マスクの着用も個人の判断によるものとなった。普段の授業はもちろん、校外学習や他団体との交流にも必要以上に気兼ねせずいろんなことが普通に出来るようになった。例えクラス内で感染者の増加傾向が見られたとしても、速やかにオンライン授業へ切り替えるなどして、特に大きな混乱は見られなかった。
- エアライン学科1年生が参加させて頂く岡山空港でのインターンシップ、2023年度は前年度より期間が伸びて、10月～12月中旬までの約2ヶ月間半行かせて頂くことができた。2023年度岡山空港の利用者数が4年ぶりに100万人を上回っており、インターンシップ期間中も空港内は多くの利用者の方々に活況を呈していた。当初は「積極性が足りない」「元気が無い」と厳しい指摘も多かったが、現場に立つ緊張感と高揚感で、学生なりに向上心を持って取り組ませて頂いた。
- エアライン学科1年生には、「国内旅程管理主任研修」を初めてカリキュラムに導入した。旅行会社に所属する添乗員には必ず取得が義務付けられる旅程管理主任者(ツアーコンダクター)になるための研修で、座学に加えて、倉敷美観地区での実地研修も行い、無事12名全員が資格を取得する権利を得ることができた。地方空港は、地元の旅行会社が運営を請け負っていることが多く、就職活動でも話題にのぼる可能性が高いため、2024年度も1年次のカリキュラムで継続させる。
- エアライン学科2年生は、おかやま観光コンベンション協会と岡山城の方にご協力を仰ぎ、岡山外語学院で学ぶ留学生16名に、岡山城と後樂園を優しい日本語で案内するツアーを7月26日に実施した。岡山の歴史や文化を、外国人に、優しい日本語で説明するという難易度の高い内容で、事前の準備はもちろん、現地でのリハーサルも行った上で当日を迎えたが、30℃を優に超える猛暑で、ゲストの集中力や体調にも気を配らねばならず、学生たちはツアー遂行に苦心していた。おおむね好意的な感想が多かったが、もっとフレンドリーな対応が良かったという声も一部あった。猛暑の時期に、屋外での行事は出来る限り避けたい。2024年度は実施形態を変更する予定。
- ブライダル・ホテル学科1年生は、本格的にインターンシップに赴く前の5～7月のうち約2ヶ月間、ANAクラウンプラザホテル岡山とTHE STYLEにて、ベッドメイキングや清掃、会場設営、料飲サービスとの現場実習をさせて頂いた。THE STYLEでの受け入れは、2023年度が初めてで、これは株式会社ファインプランニングの協力で実現した。2024年度も、両施設とも継続実施。
- ブライダル・ホテル学科の1年生のインターンシップは、2023年度も9月中旬から12月末までの3か月半で実施できた。県内はもとより、25名中16名が県外施設での実習を希望し、その割合は過去最多。兵庫、大阪、広島、鳥取、島根、京都、沖縄など、本校学生としては今回が初めて受け入れて頂いた施設も多かった。開催が定着化してきた2月のインターンシップ発表会には、ほぼすべての施設の方々(21社/オンライン参加含む)が参加して下さり、厳しくも温かいご意見を多くたまわった。
- ブライダル・ホテル学科2年生は、7月25日に「ラヴィール岡山」にて模擬結婚式を中心としたイベントを実施した後、2024年2月24日に「森の邸宅 彩音」にて本物の結婚式をプロデュースさせて頂いた。本物の結婚式の挙行は学科として初めての取り組みとなる。2020年にコ

コロナが理由で式を中止せざるを得なかったご夫婦が、せっかくの機会だからとお引き受け下さった。ご両家のご家族様はもちろん、ゲストの皆様にも満足して頂けるよう、学生たちは限られた予算内で創意工夫を凝らし、事前の打ち合わせや準備から当日の運営までしっかりとやりきった。ぜひ今後もこのようなご縁を頂けるとありがたい。

- ブライダル・ホテル学科2年生は、毎年、ブライダル業界唯一の国家検定である「ブライダルコーディネーター技能検定」の3級と、ホテルの実務知識の理解度を計る「ホテルビジネス実務検定」のベーシックレベル2級の合格を目指している。2023年度は、両の資格を12名全員が合格することができ、それぞれ合格率100%を達成した。さらに、「ホテルビジネス実務検定」の主催団体である日本ホテル教育センターからは、全国でたった2校だけが選ばれる2023年度優秀指導校賞に選んで頂いた。
- 公務員学科の行政職や事務職を目指すクラスの学生たちが、造山古墳のボランティアガイドをしたり、造山古墳を中核としたビジネス・観光プランを考えたりするプロジェクトが3年目に突入。ボランティアガイドとして実際に小学生の社会科見学の際にアテンドをしたり、4年に1度開催される「造山古墳まつり」に屋台を出店したり、ビジネス・観光プランとして1年目より目標に掲げてきた気球を10月に上げたりすることができた。この活動は、岡山市の政策企画課及び福武教育文化振興財団等の補助を頂きながら遂行しており、2024年度もさらに内容を進化させて継続する。
- ITスキルの向上を目的に、公務員学科2年生で習熟度別の授業にトライアルした。PC基礎クラス、PC発展クラス、そして希望者にはITパスポートクラスを設けた。彼らは1年次にMOS対策の授業を受け、MOS standardを1年次で取得している学生も多い中で、改めての階層別・希望者別の授業ということで、少人数でのクラスということもあり、それぞれの満足度は高かった。ただし、ITパスポートを実際に受験するところまでには至らず（資格取得が目的ではないとはいえ、難易度が高かったか）。次年度は選択授業で発展クラスを運営予定。

(2) 資格・検定の取得状況について

A：卒業年次生（2024年3月31日現在）※退学者除く

資格・検定名	国家資格	受験者数	合格者数
Microsoft Office Specialist Excel 2016 集計		81	71
ビジネス能力検定ジョブパス 3級 集計		81	81
ニュース時事能力検定 3級		60	25
アマデウスシステム検定 Specialist(初級) 集計		8	7
ブライダルコーディネーター技能検定 3級 集計	✓	12	12
ホテルビジネス実務検定試験 ベーシックレベル2級 集計		12	12
マナー・プロトコール検定 3級 集計		20	20
サービス介助士 集計		20	20

B：1年生（2024年3月31日現在）※公務員コースは卒業年次生に含む

資格・検定名	国家資格	受験者数	合格者数
Microsoft Office Specialist Excel 2016 集計		40	30
ビジネス能力検定ジョブパス 3級 集計		65	61

国内旅程管理主任者資格 集計		12	12
マナー・プロトコール検定 3級 集計		37	30

2. 卒業年次生の就職・内定状況について

◇コース別就職・内定者数一覧（2024年3月31日現在）

コース	就職希望者数	就職・内定者数	学内編入	備考
エアライン	8	8	-	
ブライダル・ホテル	12	12	-	※1名は業務委託契約
公務員ビジネス	33	33	-	
公務員	24	24	4	
計	76	76	4	

- エアライン学科:航空需要の回復とともに、航空業界は引き続き深刻な人員不足に陥っており、8名の学生全員が航空業界（地上職員）から内定を頂いた。しかし1社目ですんなりと内定を頂けないことも当然あるので、緊張感はある。また、留学経験もあり、歴代の学生の中でもTOEICハイスコアの学生が、キャビンアテンダントの採用試験に数社挑戦したが、最終選考まで進むことはできなかった。人気職業であるキャビンアテンダントはまだまだ狭き門であり、それを突破するためには、綿密な準備と積み重ねが必要と思われる。
- ブライダル・ホテル学科：ブライダル業界・ホテル業界共に人員は不足しており、内定は頂きやすい環境にある。業界外を志望した1名を除く10名が業界から内定を頂いた。本校はブライダル業界志望の学生が多かったが、2023年度は4名の学生がホテルへ就職した。本校でもホテル志望者は増加傾向にある。また、カメラマン志望の学生は、フリーランスで撮影や映像の仕事を請け負っていくとのこと。働き方の多様化が進む中で、新卒の学生にとってもフリーランスが選択肢のひとつになっている。
- 公務員学科の公務員採用試験合格率は、一次試験で93.2%、最終合格率は79.4%で、前年度よりもポイントは改善した。
- 公務員試験対策でいくつかの高校の講座を担当させて頂いているが、職業としての公務員人気は下がる一方で、若い人材を早く確保したいとの意向から、各自治体が高校生の積極採用に力を入れているとみている。本校の学生が高校生よりも採用してもらえる可能性を拓げるためには、基礎学力のさらなる向上、元気の良い挨拶や失礼のない立ち居振る舞い、本校だからこそ体験・経験できることをふまえて身につけられる能力（人間的なものも含む）であろうか。創意工夫を続けていく。

3. 学生募集状況について

◇2024年度コース別入学者数一覧（2024年5月1日現在）

コース	出願者数	入学者数
エアライン	18	17
ブライダル・ホテル	31	29
公務員ビジネス	46	37
公務員	23	15

計	118	98
---	-----	----

- エアライン学科：オープンキャンパスへの集客数は、コロナ前の数字にはまだまだ戻らない中で、歩留まり率は過去最高を記録し、3年ぶりに定員に近い入学者数を確保することができた。航空現場ではどこも人手不足の状態が続いており、地方空港も県をまたいで積極的に採用活動を行っている。これを機に、本校も、さらに多くの空港と関係性を構築し、それぞれの希望やニーズに即したカリキュラム等が提供できるように努力したい。
- ブライダル・ホテル学科：オープンキャンパスへの集客数は前年度よりも減少したものの、過去最高の歩留まり率で、2年連続定員を大幅に超える入学者数となった。ただ、いまだにこのブーム（たぶんブライダル分野）の到来理由はよく分かっておらず、むしろ終息の様相を呈している。長期のインターンシップなど本校ならではのカリキュラムをアピールし、引き続き入学につなげていきたい。
- 公務員学科：高卒求人条件の向上、大学進学の高難易度の低下といった外的要因で、全国的に減少分野と明確な分析が出た。加えて、本校の入学辞退者のうち11名が現役（高校生）で採用試験に合格しており、そもそも出願しない高校生も含めて、出願者数・入学者数ともに大幅減という状況に陥っている。引き続き、本校に入学して学習し、公務員という職業を目指すメリットを伝えていきたい。

4. 生涯学習センターについて

生涯学習センターは、本校のリカレント教育部門として事業を実施しており、厚生労働省管轄の、職業訓練及び生産性向上支援訓練を中心にさまざまな講義を行った。

- 本校で開催する職業訓練のほとんどが事務職を希望している方に対するもの（医療事務含む）。しかし、簿記やパソコン（Word・Excel）を使えるだけでは、事務職として再雇用につながる能力としては乏しい。「作る側」ではなく「活用する側」としての知識が、中途採用におけるPRになると実感している。また、職種問わず「デジタルリテラシー」の知識習得が求められており、すべての訓練に置いて共通として科目として「デジタル活用基礎知識」を設け、時代にマッチングしたものを提供しているところである。
- 中高年齢層の訓練生も増えており、これは採用側の年齢制限が大きく影響をしていると考えられる。「年齢不問」と言いながら、多くの企業が若年層を希望しているのが現状。中高年齢層の再雇用となると、それまでのキャリアを今後の仕事にどう活かせるか、自己理解を深め、それを表現する力も必要。そのことを訓練生に理解して頂くことが課題となっている。
- 若年層の早期離職者に対するリカレント教育について、検討を始めている。超売り手市場であることを追い風にいったんは就職したものの、早期離職する若者が増えている。専門学校で培ったノウハウと、職業訓練等のカリキュラムを組み合わせ、可能性のある若者の中途採用を望んでいる企業の声も聞きながら、何らかの形を作りたい。

以上